

【施策評価調査】

施策名	3-4-2	交通安全施設の整備		102	本町の交通量の増加に伴い、交通安全対策が重要となっており、組織育成などのソフト面と交通安全施設の整備などのハード面が必要になっている。 本施策では、ハード面の整備を充実させ交通安全事業の行政としての役割をはたすものです。
		※高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	総務企画部 地域安全課	担当	危機管理担当		交通事故の削減を目指して、ガードレール、カーブミラー、外側線(路肩を示す線)等の交通安全施設を計画的に増設するとともに、老朽化したカーブミラーの交換を行います。 (※「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)
環境変化		リーダー	戸井田 和明		

■指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①:交通事故発生件数(件)	平成16年度町内人身事故発生件数	計画	240件	235件	230件	225件	220件
	252件	実績	↑ 212件	↑ 199件	↑ 146件	↑ 121件	
指標②:人口10万人当り交通事故発生件数(件/人)	平成16年度人口10万人当り交通事故発生件数	計画	761.9件	739.7件	718.2件	697.3件	677.0件
	817.6件	実績	↑ 682.7件	↑ 640.1件	↑ 472.0件	↑ 394.5件	
指標③:		計画					
		実績					
◆◆ 指標に関する特記事項 ◆◆							

	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	当初	4,500,000	5,500,000	10,110,000	2,500,000	
	決算	4,494,000	4,746,000	10,006,290	2,289,000	

■事務事業事後評価 21年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか？(アウトカム)			
①仁井田コミュニティゾーン整備事業	当初 2,500,000	カラー舗装面積	A	カラー舗装したことにより、ドライバーの注意を促し、歩行者や自転車の交通弱者を交通事故から守ることができました			
	決算 2,289,000	192㎡ / 500㎡		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
②交通安全施設設置事業費	当初 5,000,000	人身事故の発生件数の減少	A	カーブミラーやガードレールの設置により交通事故の防止と危険回避になりました。			
	決算 5,145,105	25件の減 / 前年度より10件の減		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
③	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
④	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
⑤	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

■施策事後評価 21年度の検証

	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	交通事故発生件数でH19年が199件、H20年が146件で対前年53件減少した。また、人口10万人当りの交通事故発生件数もH20年が472.0件でH21が394.5件で対前年77.5件減少しました。	今後も、交通危険箇所を調査し、交通事故を未然に防げるよう交差点内や横断歩道、路側帯を薄層カラー舗装をすることで、ドライバーに注意を促すことができるため、計画的に交通安全施設を設置していくことが重要であります。
総合評価	交通安全運動推進の啓発活動や各団体の取組みと相まって、年々交通事故発生件数も減少してきており、成果はあがっていると評価する。これまで行ってきた整備箇所の効果を検証した上で、予防保全的な危険箇所の改善を図るべく、関係課や関係機関と引き続き連携するとともに、後期計画に向けて、交通安全政策総体としてどういった事故が多いのか、分析した上での施策展開を検討すること。	